

す。それも頻繁にそういった仕事が入ったのでジャズ・クラブのほうに機会が少なかったのです。ここ20年来にしても高級カントリー・クラブでのディナーなどでの演奏の仕事に呼ばれることがほとんどなのです。これらはほとんどロサンゼルス地域で、最近ではレイクサイド・ゴルフ・クラブやシャーウッド・カントリー・クラブなどで定期出演しています。

——ソロ・ピアノ・アルバムを聴いて大変感心しました。新しいアルバムをリリースする予定はありますか？

ベン ソロ・ピアノ・アルバムの後に、私のお気に入りトロンボーン奏者のロジャー・ピッセルとのデュオ・アルバムをリリースしています。『ジ・アート・オブ・ザ・デュオ』というタイトルです。またクインテット編成ですでに録音済みのセッションがあり、近いうちにリリースされる予定です。——あなたのピアノ・スタイルは大変ユニークですね。もっと多くの人たちが聴く機会を作るべきだと思います。

ベン 私のジャズや音楽の演奏に対するコンセプトは常に演奏する曲のメロディ要素を強調するようにしています。それはテーマのメロディの良さを失わせないようにするものです。残念ながらこういったアプローチを持つミュージシャンは少ないと思います。また聴衆もそのコンセプトを理解されないところもあります。しかしながらこれもまた時代とともに変わっていくと思います。私は今もジャズだけでなくクラシックなどの勉強をすると共にいろんなコンサートに足を向けています。プロコキエフ、ラヴェル、武満徹などが特に好きな作曲家です。

——ジャズ・ピアノに戻りますが、最初に影響を



受けた人は誰ですか？

ベン オスカー・ピーターソンです。で何度も聴いています。それからレターノです。先ほども言いましたよ。レッスンをうけました。またビル・好きですね。

——最初のリーダー作の『アウト・ワールド』（エヴェレスト・レーベル）な経緯でリリースされたのですか？

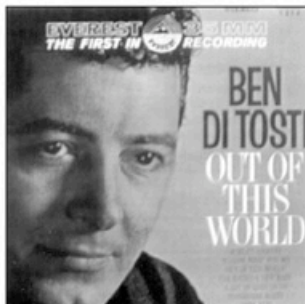
ベン 自分のトリオでまず録音しました。当時のマネジャーだったオムスがエヴェレスト・レコードと発ててくれたのです。ベースのステイバとドラムスのジェリー・D。もこの録音には大変協力的でした。

——そのアルバムの後にもう1枚、ラフィックからリリースされています。アルバムを聴いて大変驚いたのと感じたのアルバムではベースのステイブレイ・プライスのトリオですね。確かにオスカー・ピーターソンのトリオでしたが。この二人のその後は？

ベン スティープは残念ながら健康ベースは弾いていません。レイです。ルに住んでいて演奏活動は続けてい

March 26, 2009 in Burb

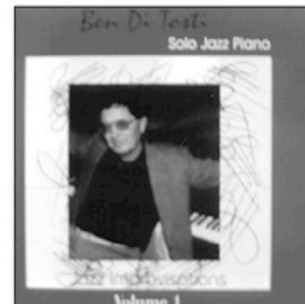
Ben Di Tosti のHP/www.



『Out of This World』



『Carnival』



『Solo Jazz Piano Vol.1』



『The Art of Roger Bissell』